

ひょうご防犯まちづくり推進協議会講演録

日時：平成20年6月2日（月）

14:45～15:10

場所：兵庫県公館第1会議室

【事務局】

坂本様は、神戸市西区井吹台自治会連合会会長をはじめ、NPO法人ニューいぶきの理事長など、多くの役職にご就任されており、テレクラの出店阻止、小中学生による体験型防犯チームの結成など、地域安全まちづくり活動に精力的に取り組まれています。

また、知事賞の「ひょうご地域安全まちづくり活動賞」の受賞や、内閣総理大臣表彰の「平成19年度安全・安心なまちづくり関係功労者表彰」を団体で受賞されるなど、その活動は社会的にも高く評価されています。

本日は、「握手から始めるまちづくり」と題して、井吹台における取組を中心にご講演いただきます。それでは、よろしく申し上げます。

【坂本津留代氏】

本日は、私たちの町の取組と併せ、どの町でもできる、少し本気とやる気になればできる、地域住民とともに行うことができるまちづくりについて、お話をさせていただきます。

先ほど知事と握手を交わしました。

地域の中でもたくさん握手ができて、一緒に連携してできることがたくさんあります。事業者の皆様も地域の中に少し降りてきていただいて、地域を見ながら「これならうちの企業と、あるいは団体と、一緒にできるのではないか」と感じていただきたいと思います。

まず、私たちは「自分たちの町だから、自分たちが守る」ということを基本として、活動を行っています。

私は、神戸市西区井吹台というところに住んでいます。

阪神・淡路大震災の2年前、平成5年にまちびらきが行われました。

神戸市最後のニュータウンと呼ばれる町で、今まで隣近所の方々の助けで子育てや家事をこなすことができた私は、この町で何かお返しがしたいと思い、ボランティア活動を始めました。

そして、平成7年の阪神・淡路大震災では、私たちの町にはたくさんの仮設住宅が建ちました。

まちづくりも済んでいない中に仮設住宅が建つことによって、ボランティアの方々もたくさん入ってきました。

私たちから見ると、これらのボランティアの方々は「ボランティアをしてあげている」という感じに見えました。

このままでは、この町はだめになるのではないか。自分たちの町のことは自分たちで取組んでいかなければいけないのではないか、という思いから、私たちのまちづくりが始まりました。

私たちの町には、小学校が2つ、中学校が1つありますが、ともに生徒は千人を超えており、一つの小学校は1,500人、もう一つの小学校も1,200人からさらに増えており、中学校も1,100人を超えています。

また、幼稚園も保育園も満杯の状態です。

私たちは、今日も明日も0歳児の親育て教室をやっています。

何故かというと、0歳児を私たちが育てることはありません。おじいちゃんおばあちゃんが両方で4人も居て、父親がいて母親がいて、私たちが何かをすることは決してありません。けれど、私たちがやっている福祉センターの当番員に「おはようございます。」「今日はありがとうございました。」と言えない親がどんどん増えていくようでは、まちづくりはできません。

そんな人たちに、挨拶のできるしっかりとした親になっていただきたい、という思いで親育て教室を開催しています。

次に、私たちが子どもたちを安全に見守りたい、子育てをしたいと思っても、外に働きに出ているお父さんお母さんたちは、なかなか地域活動をすることはできません。

ニュータウンの私たちに何ができるかと考えると、子供たち自身にしっかりしてもらえない。私たち親ができないのであれば、小学生が自分の身を守る、中学生になったら地域のことができる中学生、高校生になって井吹台から出て行くまでに、立派な高校生になってほしい。そのお手伝いならできると考えました。

ところが学校に行って話をしても、学校は「忙しいんです。試験もある、行事もある。ゆとり教育といわれて学校は大変なんです。」と言われました。

決して私たちは、「私がこうしたい」とは言いません。「学校で困られていることはありませんか。」「何か地域が協力できることはありませんか。」と何遍も学校に通い、やっと学校と気持ちが通って、そして「ジュニア防災チーム」の結成にとりかかることができました。

これは小学校も中学校も一緒です。このように学校であっても地域であっても「私がやる」という言葉が飛び出すようでは、連携も一緒に取り組むこともできないのではないかと考えています。

次に、地域で仲良く取組ができて、小中学校とも仲良く取組ができて、それだけでは限界があります。

私たちは自治会費として、年間50円ずついただいておりますが、それでも十分残ります。無駄はしません。掲示板はいくつお持ちですか。回覧板数はいくつ必要ですかと尋ねます。無駄なものは一切一枚も刷りません。やりとりもメールかFAXかを使い、無駄をなくしています。

若い人にも自治会に入ってもらい、その中で、企業さんもどんどん入ってこられました。

大きなスーパーが入って来られた時、ご挨拶に来ていただきました。その社長、副社長に来ていただき、「ここにスーパーが2軒建つので、仲良くしてください。」と言われました。「寄附がいりますか。」と聞かれましたが、私たちは神社仏閣もないニュータウンですから、「寄附はいりません。地域活動にはこれとこれがありますので、同じ地域の住人、企業として、どこかに参画をしてください。」とお話をしました。

私たちが町をあげて取り組んでいる「いぶきの森を歩こう」という事業では、「健康でい

つまでも元気に過ごしてほしい」ということで、10月にいぶきの森の外周を歩いており、約800名が参加をしています。

そこで、その中で「企業としてできることをお願いします。飲み物か、食べ物などをいただければ、それが無理なら半額私たちが持ちます。」と申し上げました。

すると「わかりました」ということで、アンパンを800個、「いぶきの森を歩こう」の時にいただきました。

また、別の企業が来られたときには、「何か地域の中でされていますか」といわれたので、「企業からは自治会費をいただくわけでも、パトロールに参加されるわけでもないので、この地域におられる企業として、どの事業でも参加をお願いできませんか。」と言うと、その企業さんも「水を800本出しましょう。」と行っていただきました。

それと、「いぶきの森を歩こう」の時に、トイレを貸してください。日曜日なので社員を出すのは大変と思いますが、お願いします。」と申し上げたところ快くトイレを貸していただきました。

これらの情報を各家庭に配布します。「どこどこからパン、水をいただきました。本当にありがとうございます。これで地域の事業ができます。」と周知します。

これは、地域で一緒に汗を流し、汗を流すことができなければ、人、モノを出しましょうということ、それが一つの連携だと思えます。

金がないなら汗を流す、それもできないのなら知恵をだす、色々な方法があると思えます。

その企業について、あるときこんな問題がありました。

企業で水を汲み上げているので、「地盤沈下が起きるのではないか。」と住民から声があったのです。その時は、行政に中に入っていて、地盤沈下の恐れの数値等をご説明いただき、検査もしていただきました。その後年に二回、数値を入れて住民に回覧をしています。

地域では色々な専門的な治水権云々わからないので、丁寧に説明をいただきました。それから、大きな問題も起こっていません。

地域は決してややこしい住民ばかりではないので、企業さんが地域に入ってきたとき、何をすることが地域に貢献できるのか、できないことはできないとはっきり言っていただいて、手をつなぐことで、地域と企業さんとが共生できると考えています。

また、新しい企業さんが長田から移ってこられました。我が町は長田のように古い町ではなく、ニュータウンなので、今28,000ほどの地域ですが、メールで全て情報が行きわたることができます。若い町ですから、その辺をうまく活用して上手に話をさせていただく。自治会を通して、的確に住民に情報を提供しました。そうすることで、問題も起きませんでした。

このように、地域でも企業さんと手を組んで、色々な連携をとることができるのではないかと考えています。

ぜひ地域の中の色々な団体をよく見ていただいて、一緒に組めるとなれば地域もありがたいですし、企業さんにとっても、これから消費者となる多くの子どもたちへの意識付けができるのではないのでしょうか。

私たちの地域はこれらがうまくいっているように思います。

また、隣町のハイテクパーク工業会さんの中にコンビニが欲しいという声が上がった時

のことです。

私たちの町ではコンビニの誘致は行っていませんが、「まず話し合いをさせてください。」と申し上げました。いくらハイテクパークという町の中にコンビニを作るのであっても、私たちの町も必ず通過をします。じゃあ暴走族の溜まり場にならないですか。1人体制で本当に犯罪は起こらないですか。そこが溜まり場になってしまうと、町全体に影響を及ぼします。

そこで話し合いをして、夜は2人体制になりました。それと地域の企業としてやっぱり守っていただくことは守っていただく。そして工業会さんにもそこを支援していただく。

その結果、今ではそのコンビニさんとも連携をとって、一緒にパトロールに参加していただいたり、地域を上げて、「そこでお弁当を発注しようね。」とか、「せっかくできたコンビニやから、漬さんようにしようね。」ということで、全戸に情報を配布をさせていただいています。色々な意味で連携させていただいています。

このように、まずよく相手を知ることが大事です。そして連携によってお互いにメリットもあります。もちろんメリットだけではなく、ちょっとだけ目をつぶってしていただくこともあります。ただしご協力いただいた時など、看板などに企業さんの名前を入れますし、企業さんの情報を全戸に配布させていただいており、地域で一緒に汗を流し事業をする仲間、と我々は思っています。

どこの地域でもそうですが、大きな金、人、団体が動くと、次の年にはもっと大きな火花があがらないと綺麗と感じなくなるので、私たち自治会というのは、必ず毎日できること、みんなでできること、お金がなくても、何かがなくてもできることを考えています。

そういう地域を企業さん、団体さんが応援していただくと、その成果がもっとあがります。握手をする仲間が増えると、もっと形が大きくなっていきます。

地域の中で私たちが取り組んでいるものの中に、例えば門灯 100%というものがあります。

門灯 100%というと、「街灯をもっとつけてもらえや。」とよく言われます。「そんなあなたのところの門灯がついていないのに、なぜ街灯なんですか。町として門灯を 100%つけて、それからどうしてお願いをしないんですか。それをねだるといことは、あなたはもっと税金を払うということですか、そういうことですか。違うんじゃないですか。行政を責めたり、役人を責めるだけじゃなくて、あなたがまず努力をしたうえで、行政に対してお願いをしましょう。」という意識で、門灯点灯 100%運動を行いました。

これも、言っているだけでは 100%はつきません。「電球の球が切れてますよ。」と門灯が消えている家に申し入れをすると、次の日には門灯がついている。細かく、そしてどんな成果をあげているのか、それをしっかりと伝えます。

中学生が、「部活の帰りに明るくなって安心した。」こういう風に言ってくれますよ。「うちには中学生はいないけれど、それだったらつけようか。」となります。

「お父さんが帰ってきてても消さないでくださいね。向かいのおっちゃんもみんなが帰ってくるまで、朝までまちを明るくしましょうね。」全国の犯罪率を見せて、「明るいまちには犯罪が少ないですよ、だから、みんなで頑張りましょう。」と言っています。

すると、おまわりさんにも「ここは夜、足元がしっかりと見えるまちですね。」とってもらえました。

それで、「神戸市さん、私ら頑張ってますよ。知事さん、私たちは自分たちでできること

は一生懸命やっていますよ。」と申し上げたところ、70 基ほど街灯をつけていただきました。それも、「こことここに下さい。」と申しあげました。私たちがしっかりと点検をして、ここに欲しいな、というところにつけていただきました。そのように、よく話し合いをして行くと、効果があがり、良いものになります。

私たちは町全体で重点目標を立てています。18 年度、19 年度順番に、誰もができること、寝たきりのお年寄りでも、生まれたての赤ちゃんでも、みな自治会員ですので、全てができることに取り組んでいます。

今年は、「生活環境を守るためには、せめて町の中では自転車に正しく乗りましょう。」ということで、「自転車の正しい乗り方」という運動を始めています。「自転車に乗って、住宅街でスピードを出して接触事故を起こさないように。夜、無点灯で事故を起こして、加害者、被害者に家族がならないように、気をつけましょう。子どもを 2 人乗せて無謀な運転をして、子どもに怪我を負わせないようにしましょう。自転車に乗っているときにウォークマンをして、後ろからクラクションを鳴らされても気づかないようでは、事故を起こしたらあんたが悪いんやで。」と言っています。このように地域で取組めることは一生懸命取り組んでいます。

その中で、ある大きな自転車メーカーさんに電話をさせていただきました。「町の中ではこんな取り組みをしますので、二人乗りの自転車とか、そういったものを地域の中で展示させてください。自分の目で見て、確かめるイベントをしたいと思います。企業さんよろしくお願いします。」とお話をして、協力をいただけることになりました。

また、大きなホームセンターがあるのですが、その自転車修理のおじさんに、「自転車のイベントをするときに、簡単な自転車の修理の方法を教えてください。テントの下で、実地講習会をしたいと思います。正しく子どもたちが自転車に乗り、安全な乗り方を教えてやってください。」とお話をして、来ていただきました。このように、地域ではいろんな方々の助けを得て、活動を行っています。

地域は本当に力がなくて、弱い部分がたくさんあります。ちょっとだけ力を貸していただけて、申し訳ないですが、ちょっとしんどい目にあっていただくと、本当に地域の中の子どもたちが安全で安心して自転車に乗り、そのほか安全で安心なまちづくりができていくのではないかと思います。

地域や団体に戻ったときに、少し地域に目を向けていただいて、手をつなげる地域があれば、つないでやってください。そうすれば、もっとまちが活性化して、よいまちが神戸の中に、そして兵庫県の中に生まれていきます。

ちょっと手を出して、少し支えていただくだけで、もっとよい町に生まれ変わっていくのではないかと思います。

これからも私たちは、自分の町だから、自分たちができるまちづくりをやっていきたい。そして、私たちの町の子もだから、立派に育てていきたい。

そして、皆さんとともに、神戸、兵庫県のまちづくりを行っていきたいと考えていますので、またお力をお貸しいただいて、どこかで握手ができることがあれば、嬉しいと考えています。

今日は、ありがとうございました。